

2015年12月9日 全6頁

## Indicators Update

# 10月機械受注

### 好スタートを切った10-12月期機械受注

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 岡本 佳佑  
エコノミスト 小林 俊介

#### [要約]

- 2015年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+10.7%と2ヶ月連続の増加となり、市場コンセンサス（同▲1.5%）を大幅に上回った。3ヶ月移動平均でも上向きに転じており、機械受注は夏場を底に増加基調に転じていると評価できる。
- 10月分のデータに関して、需要者別に受注をみると、製造業は前月比+14.5%と5ヶ月ぶりに増加した。大型案件によって押し上げられた5月をピークとした減少基調に歯止めがかかった格好である。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+10.7%と2ヶ月連続で増加した。
- 先行きの機械受注は横ばい圏での推移を予想している。昨夏より継続する原油安などに伴う企業収益の改善は、設備投資意欲を下支えする要因になるとみている。特に、海外経済減速の影響を受けにくく、堅調な内需に支えられた非製造業において、人手不足に対応した省力化・省人化投資が行われることが期待される。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2014年		2015年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
民需（船舶を除く）	0.1	5.6	2.5	▲1.4	2.9	3.8	0.6	▲7.9	▲3.6	▲5.7	7.5	10.7
コンセンサス												▲1.5
DIR予想												0.5
製造業	▲1.9	10.4	▲3.2	▲0.6	0.3	10.5	9.9	▲14.0	▲5.3	▲3.2	▲5.5	14.5
非製造業（船舶を除く）	▲2.9	5.0	8.0	▲5.0	4.7	▲0.6	▲4.0	0.6	▲6.0	▲6.1	14.3	10.7
外需	▲7.0	0.1	14.2	6.6	▲13.5	▲7.0	3.7	20.3	10.2	▲26.1	4.8	41.6

（注）コンセンサスはBloomberg。  
（出所）内閣府統計より大和総研作成

## 10月機械受注：2ヶ月連続で増加。市場コンセンサスを大幅に上回る結果

2015年10月の機械受注統計によると、国内設備投資の先行指標である民需（船舶・電力を除く）は、前月比+10.7%と2ヶ月連続の増加となり、市場コンセンサス（同▲1.5%）を大幅に上回った。3ヶ月移動平均でも上向きに転じており、機械受注は夏場を底に増加基調に転じていると評価できる。また、10月の結果を受けて、内閣府は機械受注の基調判断を「足踏みがみられる」から「持ち直しの動きがみられる」に3ヶ月ぶりに上方修正した。

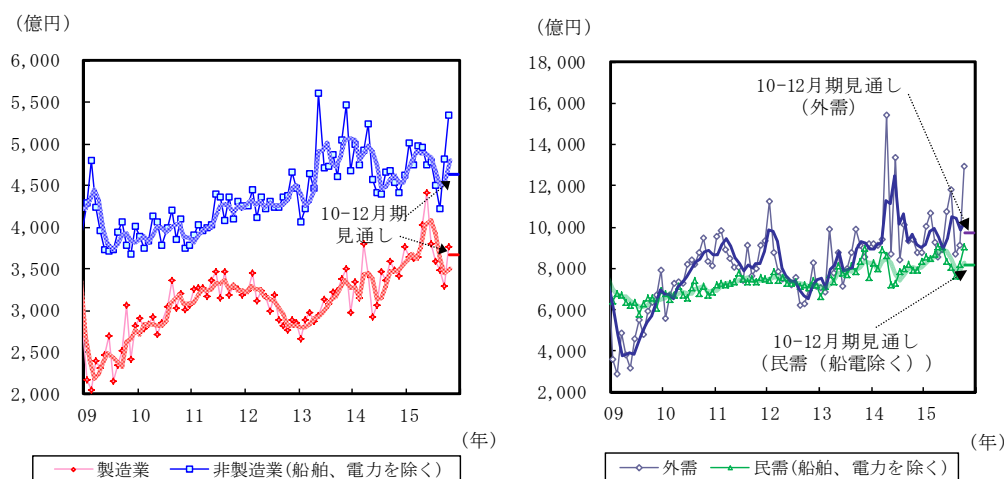
## 製造業：5ヶ月ぶりに増加。減少基調に歯止めがかかる

10月分のデータに関して、需要者別に受注をみると、製造業は前月比+14.5%と5ヶ月ぶりに増加した。大型案件によって押し上げられた5月をピークとした減少基調に歯止めがかかった格好である。内訳を見ると、「その他製造業」（同+26.6%）や「一般機械」（同+13.9%）、「その他輸送用機械」（同+48.7%）、「鉄鋼業」（同+103.9%）などが全体を押し上げた。その他輸送用機器については、このところ増加基調が鮮明となってきた。鉄鋼業については、増加率こそ大きかったが、過去2ヶ月が低水準であったことの反動による面が大きいとみられる。一方、前月に増加に寄与した「化学工業」（同▲43.3%）や「電気機械」（同▲7.5%）などは減少した。化学工業は振れを伴いながら、このところ横ばい圏での推移が続いている。

## 非製造業：2ヶ月連続で増加

非製造業（船舶・電力を除く）は前月比+10.7%と2ヶ月連続で増加した。内訳を見ると、「運輸業・郵便業」（同+98.6%）や「農林漁業」（同+32.7%）が増加した。運輸業・郵便業に関しては、均してみても堅調な動きとなっている。一方、前月はプラスに寄与した「金融業・保険業」（同▲7.7%）や「建設業」（同▲11.4%）は全体を押し下げた。建設業に関しては、頭打ち感が出てきている。

図表2：需要者別機械受注(季節調整値)

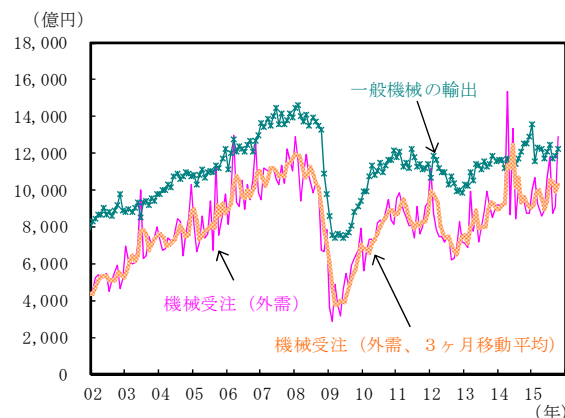


(注) 太線は3ヶ月移動平均線。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

## 外需：持ち直しの動きがみられる

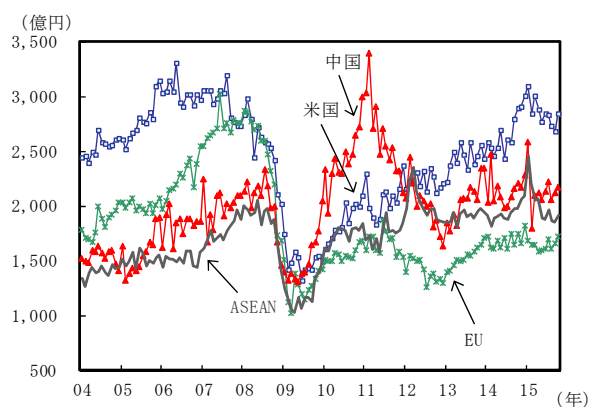
外需は前月比+41.6%と2ヶ月連続で増加し、持ち直しの動きがみられている。世界経済の減速の影響が、徐々に緩和しつつあることなどが示唆されているとみられる。

図表3：一般機械の輸出と機械受注の外需



(注) 季節調整は外需は内閣府、一般機械輸出は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

図表4：一般機械の輸出金額（主要国・地域）



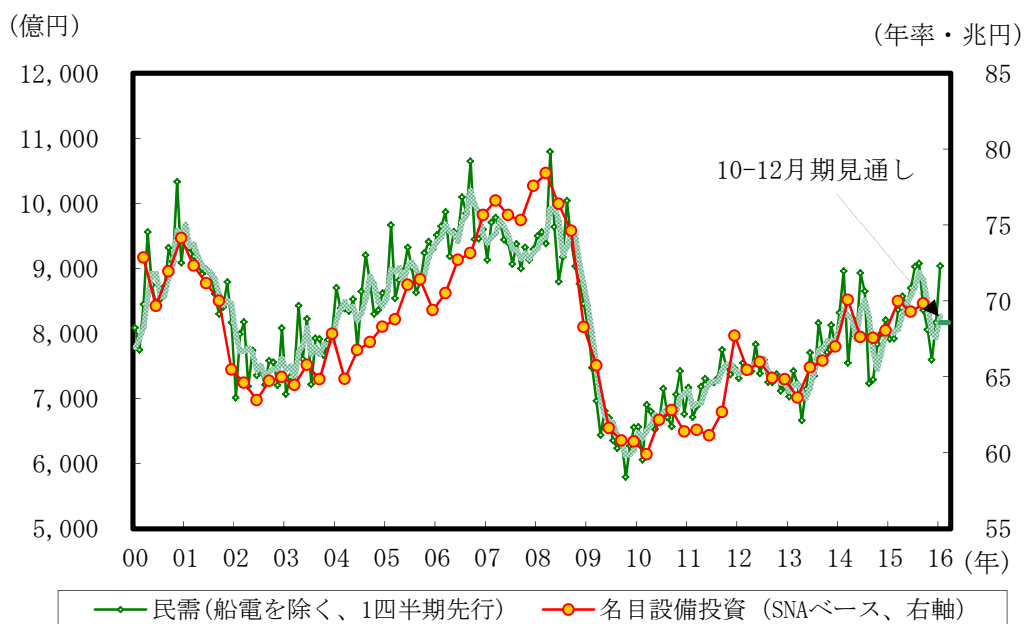
(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 先行きの機械受注は横ばい圏での推移を予想

内閣府が公表した10-12月期見通しでは、民需（船舶・電力を除く）は前期比+2.9%の増加が見込まれている。10月の結果を踏まえると、四半期の最初の月は好スタートを切ったと考えられるだろう。ただし、海外経済の減速などに伴う輸出と生産の停滞は続いており、一部の輸出関連企業が設備投資に対して慎重姿勢を強める可能性がある点に留意しておきたい。

先行きの機械受注は横ばい圏での推移を予想している。昨夏より継続する原油安などに伴う企業収益の改善は、設備投資意欲を下支えする要因になるとみている。特に、海外経済減速の影響を受けにくく、堅調な内需に支えられた非製造業において、人手不足に対応した省力化・省人化投資が行われることが期待される。

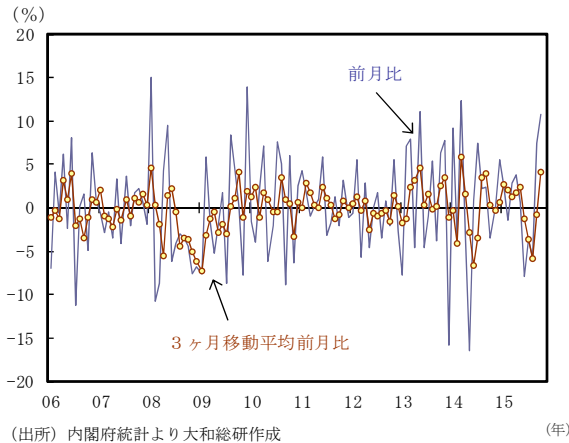
図表 5 : 機械受注の民需と名目設備投資



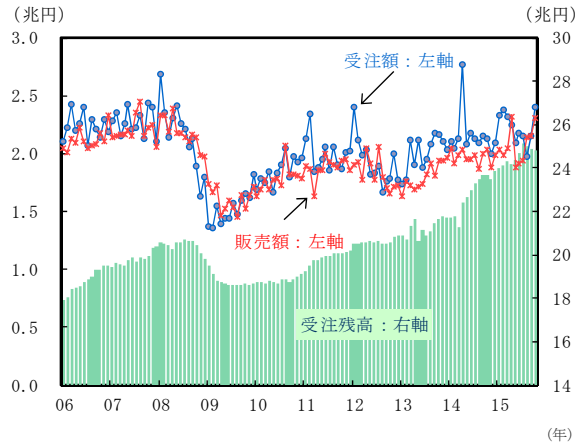
(注) 太線は3ヶ月移動平均線。  
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

概況

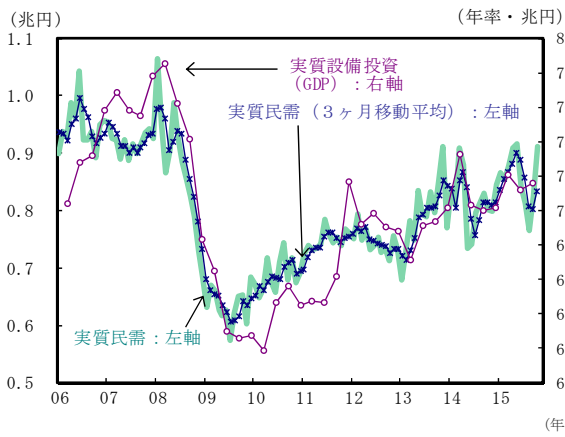
民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）



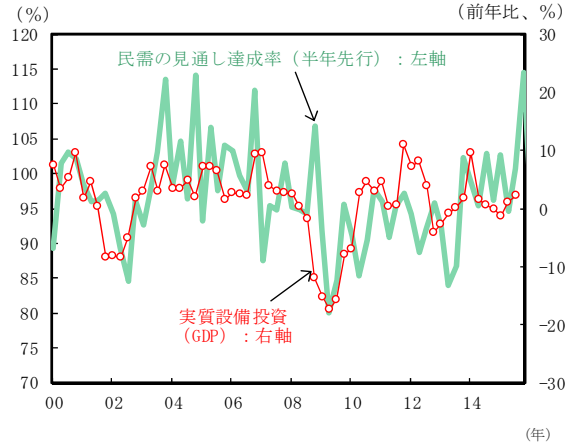
船舶を除く合計（季節調整値）



実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

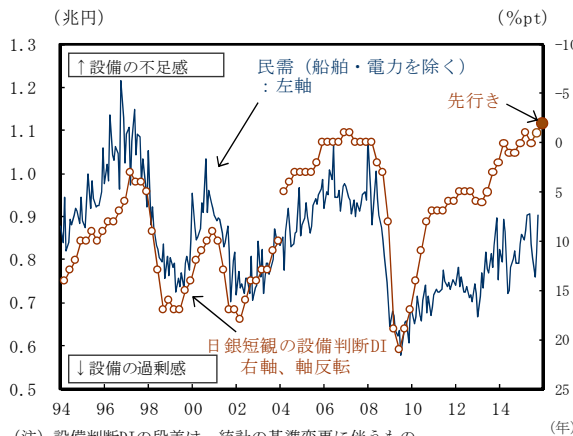


民需（船舶・電力を除く）の達成率と実質設備投資



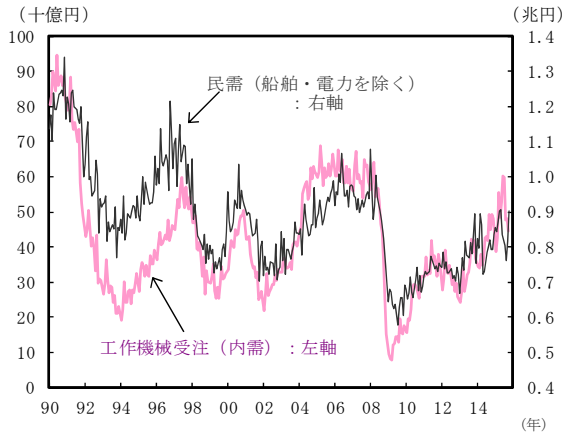
(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と設備判断DI



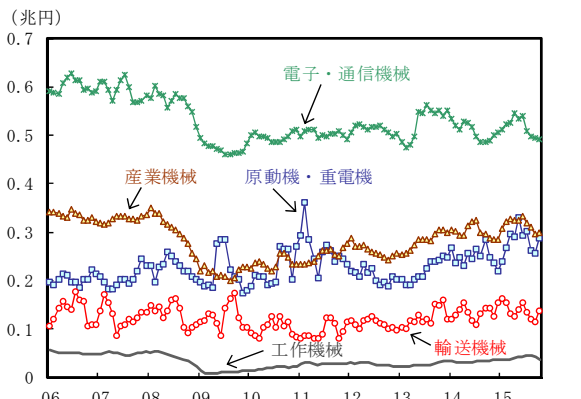
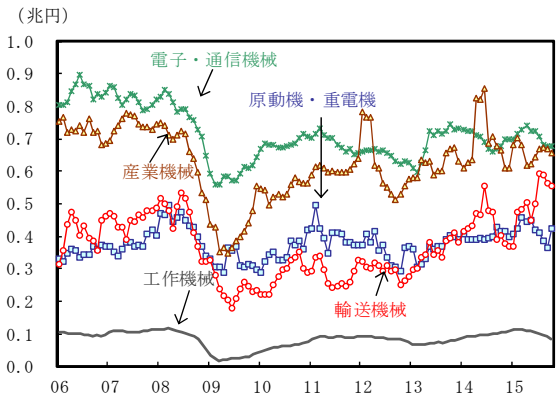
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注(季節調整値)と工作機械受注



**機種別と製造業・非製造業の動向**

**機種別・大分類の受注額（季節調整値）**      **機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）**

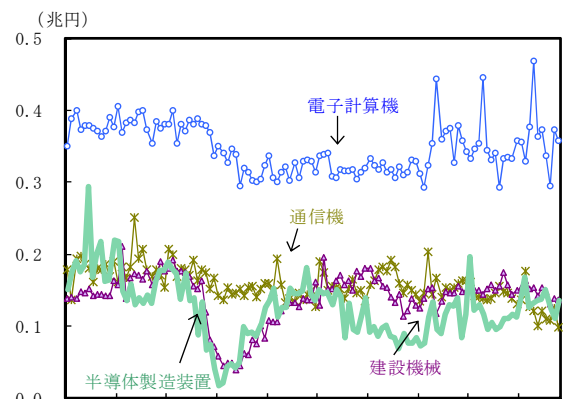
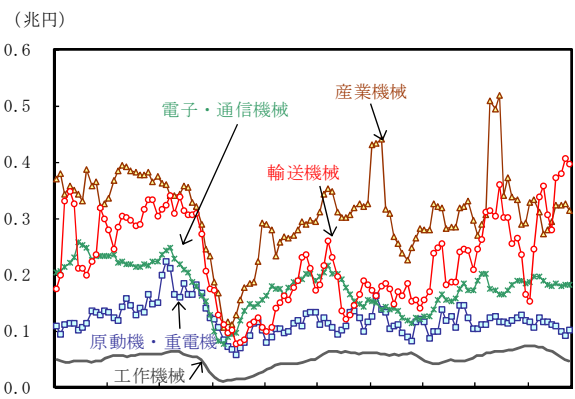


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

(年)

**機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）**      **機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）**

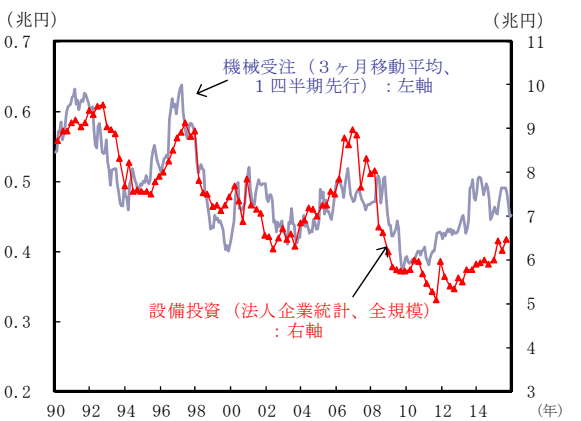
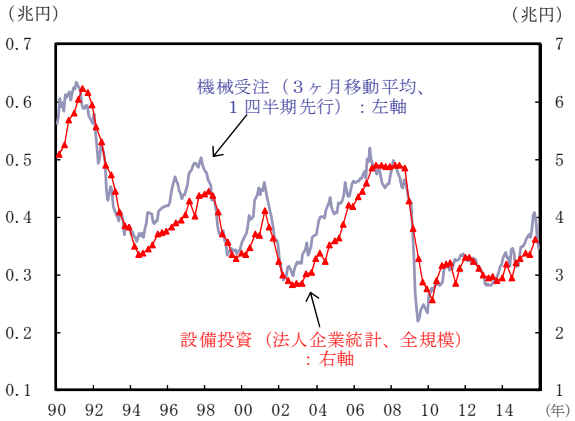


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

(年)

(年)

**機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）**      **機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）**



(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成